

# 平成29年12月議会 宇都宮市議会定例会報告

一般質問  
一問一答方式

## 小平美智雄

### 質問項目

- 1 ネットワーク型コンパクトシティの形成について
- 2 公共交通の再編について
- 3 宇都宮駅東口地区整備事業を契機としたMICEの強化について
  - 1) MICE振興の強化について
  - 2) アフターコンベンションへの対応について
  - 3) MICEの活用による次世代育成支援プログラムの実施について
- 4 ワクチンの不足する予防接種への対応について
- 5 子ども・子育て支援について
  - 1) 年間を通した待機児童の解消について
  - 2) 就学前相談の充実について



- 6 LRT沿線の低炭素化について
  - 1) 低炭素公共交通モデルの構築について
  - 2) モビリティマネジメントの推進について
- 7 歴史文化基本構想の具現化について
- 8 市民協働のまちづくりについて
  - 1) 地域内交通の地域負担軽減について
  - 2) 地域防災力の向上について

### 質問及び答弁（抜粋）

- 2 宇都宮駅東口地区整備事業を契機としたMICEの強化について
  - 3) MICEの活用による次世代育成支援プログラムの実施について

**Q** コンベンション施設整備により有識者が本市を来訪する契機を捉え、他都市に見られる若者が有識者と触れられる機会を提供する「次世代育成事業」による学会や企業の次世代育成支援プログラムの開催支援は本市においても有意義な事業になると思うが実施の考えを伺う。

**A** 【市長答弁】 MICEの開催は優れた人材や最先端の技術

等に直接触れられる貴重な機会となることから、子どもたちや若者の知的好奇心の醸成や将来のキャリア形成に大きく寄与するものと認識しており、これまで3x3ワールドツアーつのみやマスターズや、ジャパンカップサイクルロードレースなどのスポーツイベントにおいて選手と子どもたちが交流する機会の創出に取り組んできた。今後はこれらに加え、医学系や技術系など幅広い分野のMICEについても主催者に対し次世代育成のための地域貢献について提案するとともに、次世代育成プログラムの開催支援を行うなどMICEの誘致活動との一体的なコーディネートの実施を検討していく。

\*MICE：企業等の会議（Meeting）、企業等の行う報奨・研修旅行（Incentive Travel）、国際機関・団体、学会等が行う国際会議（Convention）、展示会・見本市、イベント（Exhibition/Event）の頭文字を取った多くの集客が見込まれ経済効果の高いビジネスイベントの総称。本市の計画する駅東口地区整備事業では中核施設としてこれらに対応する2千名程度のコンベンション施設が検討されている。



一般質問  
一問一答方式

## 中塚英範

### 質問項目

- 1 公共の福祉に資する施設整備における市民合意について
- 3 こどもの命と健康を守る取り組みについて
  - 1) インフルエンザ治療薬摂取後の異常行動等について
  - 2) エナジードリンク過剰摂取による体調・行動の異変について
- 4 盲導犬の理解及び普及促進について
- 5 人口増加地域における対策について
- 6 運転免許証返納対策について



- 7 自転車の街うつのみやの促進について
  - 1) レンタサイクルについて
  - 2) シェアサイクルについて

### 質問及び答弁（抜粋）

2 こどもの貧困対策について

**Q** 人間としての最低限の生存条件を欠く「絶対的貧困」に対し、「相対的貧困」は『見えない貧困』と言われ、7人に1人の子どもが「相対的貧困」状態にあるとされている。この見えない貧困を可視化するために、「相対的貧困状態に置かれた子どもたちが、経済状況が標準的な家庭の子どもと比べ、何を奪われているのか」を調べる「剥奪指標」を用いた大阪府の調査では、標準的家庭と困窮度1の家庭では大きな差が生まれており、「モノ」だけでなく「人とのつながり」や「教育・経験の機会」などが奪われていることが浮き彫りとなった。当会派で視察を行った大田区での剥奪指標を用いた調査では、「頑張れば報われると思うか」という質問では23.7%が「そう思わない」と回答。さらに、「自分は価値がある人間だと思

うか」については、その半数近くが「そう思わない」と答えており、「モノ」や「教育・経験」などの剥奪が、子どもから自己肯定感を失わせている事も明らかとなった。貧困は連鎖する事からも、今ここで子どもの貧困を断ち切るために、見えない貧困を可視化し、相対的貧困の実態を把握する事が必要不可欠である事から、早急に剥奪指標を用いた実態調査を行うべきと考えるが、市長の見解を伺う。

**A** 剥奪指標は所得だけでは測れない貧困状態にある子どもの実態を可視化するための有効な手段の一つと認識している。本市においても全ての子ども達が夢や希望を持って成長していける社会の実現を図るための施策事業を検討する必要があることから、他自治体の例なども参考にしながら、より効果的な調査の手法について検討していく。また、10年後の本市のあるべき姿の実現に必要な「戦略事業」に子どもの貧困対策を位置付け、これまで以上に庁内連携のもと総合的かつ計画的に推進していく。

一般質問  
一問一答方式

## 郷間康久

### 質問項目

- 1 市長の政治姿勢に関すること（LRT整備、公募委員、有害鳥獣駆除等の特別機動班など）
- 2 食酒喝采都市と音戯（おとぎ）の国づくりに関すること
- 3 市街化調整区域の整備及び保全の方針について
- 4 農業政策に関すること（米政策の見直し、ゆうだい21、農福連携、たんぼダムなど）
- 5 処理限界の農業集落排水事業について
- 6 宇都宮テクノ街道の整備に伴う市道305号線の拡幅工事について



### 質問及び答弁（抜粋）

- 1 LRT整備事業について
  - Q** 平石地区や陽東地区の地権者対応や平石中央小学校の敷地問題は怎么样了のか伺う。
  - A** これまでの取り組みにより、地権者の皆様の理解が深まってきていると認識しているが、一部の方々が不安を抱き、学校関係者からは安全性を懸念する声もあるので、引き続き丁寧に意見交換を重ね、平石地区においては新年早々に説明会を開催する予定である。
- 3 市街化調整区域の整備及び保全の方針について
  - Q** 本市では、市街化調整区域において新たな拠点づくりを実現するため、同区域の整備及び保全の方針を策定中だが、地区計画制度の運用により宅地開発が可能となる小学校周辺の運用範囲について見解を伺う。
  - A** 小学校敷地の外縁から半径300mを基本として弾力的に設定していく。

- 4 米政策の見直し対策について
  - Q** 来年度から国の米政策が見直され、生産数量を制限する減反制度から、作付参考値といわれる協力目標制度に変更になるが、これを達成した場合や未達成の場合に優遇措置やペナルティーがあるか見解を伺う。
  - A** 本県においては、主食用米の作付けの目安となる参考値は提示するが、優遇制度やペナルティーは設定しない。
- 5 処理限界状態の農業集落排水事業について
  - Q** 本市では14箇所の農業集落排水施設が稼働しているが、その中の8箇所が既に処理限界となり新規接続が不可能となっている。今後は公共下水道との接続を検討すべきと考えるがいかがか。
  - A** 現在、来年度までの予定で施設の機能診断調査等を実施しているので、今後はこれらの結果を踏まえて将来的な生活排水処理施設のあり方を検討していく。

# 私たちは皆様の声を市政に活かします!!

次回3月議会質問予定者  
今井恭男・福田智恵